

第4学年1組 国語科学習指導案

授業日 平成28年6月29日(水) 4校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 里村 穰
会場 4年1組教室

1 単元名 くらしについて考えよう①

教材文「色さいとくらし」(東京書籍 四上) 他, 色彩についての抜粋資料

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第2章第1節国語における第3学年及び第4学年の「2 内容, C 読むこと, (1)エ・オ」を受けて設定する。

2 内容 C 読むこと

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人感じ方について違いのあることに気付くこと。

現行の学習指導要領では、論理的に思考し表現する能力の育成を重視して指導事項の配列をしている。第3学年及び第4学年の「読むこと」では、「音読(指導事項ア)」「文章の解釈(指導事項イ・ウ)」の後に、「自分の考えの形成及び交流(指導事項エ・オ)」が設けられている。また、論理的に思考し表現する能力を育成することを踏まえ、言語活動例を例示している。「読むこと」では、「本や文章を読んで感想を述べたり考えを表現したりする言語活動例」となっている。

指導事項の配列や言語活動の例示の意図を考えると、「読むこと」で求められていることは、文章を理解することに留まらない。文章を理解した上で、文章の叙述を根拠にした自分の考えをまとめること、他者と考えを伝え合い考えの違いに気付いたり、自分の考えを広げたり、深めたりすることを読む能力として求めている。

これらのことから、本単元では、教材文「色さいとくらし」を読むことを通して、次の読む能力を育む。

- ・ 目的に応じた視点を基に読むことで自分に必要な情報を判断し、それらの情報を根拠とした自分の考えをまとめる力

教材文「色さいとくらし」は、人工的な色彩がもつ効果と活用例、伝統や自然の中の色彩を事例を挙げて説明し、色彩を効果的に利用することで暮らしがより一層ゆたかなものになることを述べている。教材文の構成と内容を、以下に示す。

(序論) 一段落: 私たちの身の回りにある色彩

(本論1) 二段落: 効果を活用して選ばれている色彩

三段落: 見る人を強く刺激し、真っ先に人の目につく赤色

四段落: 物をはっきりと目立たせ、明るく広がっていくような感じを与える黄色

五段落: 安心を与える色だといわれる緑色

六段落: はっきりと人目に付くようになる黄色と黒色の組み合わせ

七段落: 熱い印象、冷たい印象を与えることを利用した赤色と青色の組み合わせ

(本論2) 八段落: それぞれの色が目立ちにくくなったり、全体の調和が損なわれたりする多用や使う状況の誤り

九段落: 色同士の調和を考える必要性

十段落: 落ち着いた印象を与える伝統的な町並みの色使い

十一段落: 自然の織り成す色彩の調和の中で暮らしてきたわたしたち

(結論) 十二段落: 多くの色を自由に使うことができたようになった技術の進歩

十三段落: 様々な色を上手に使うことでより一層ゆたかになるわたしたちの暮らし

本単元では、このような色彩を題材とした教材文「色さいとくらし」を基に、言語活動「附属オリジナル標識をつくり、プレゼンする」を三次に仕組む。次の2点で価値があると考えられるからである。

1点目は、読む目的の転換を図ることができることである。文章と出合った子どもは、「どのようなことが書かれているのか」と文章内容を理解しようと読む。文章内容を理解した子どもに、三次で自分の考えをまとめる必然性のある言語活動「附属オリジナル標識をつくり、プレゼンする」を提示する。そうすることで、「附属オリジナル標識の色を何色にするか」という学習課題に対する自分の考えをまとめるために文章を読むという目的に転換させることができる。

2点目は、社会科や図画工作科の資質・能力を発揮させながら、課題解決を図らせることができることである。子どもは、社会科「安全・安心なまちづくり」の学習において、交通事故防止の方策の一つとして色彩の効果を活用した実際の事例を学習している。また、図画工作科「わたしの色は何色」の学習において、自分のイメージに合う色が何かを考えながら表現する活動をしている。他教科等で育まれた資質・能力も発揮させながら、本単元で育みたい資質・能力を育むことができる。

3 本単元で目指す姿

学習課題「附属オリジナル標識を何色にするか」に対する自分の考えをまとめるために、必要な情報を関連付けて読み、必要だと判断した情報を根拠として自分の考えをまとめる子ども

具体的には、必要な情報を整理し結論付ける（国語・社会③見方や考え方）といった資質・能力を発揮して、「わたしは、赤色にしたい。赤は真っ先に人の目につく色だし、止まれという約束の色だから、全校のみんなに見てもらえるからだ」などと、自分の考えをまとめている姿

4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全6時間（180）

単元カード参照

6 指導の構想

まず、事故防止のための取組の一つである交通標識等の白黒写真とカラー写真とを順に提示する。社会科の資質・能力①「事故を防止するための標識等には、赤色や黄色等の色が使われている」を発揮させながら、教材文の題材である色彩に関する問いをもたせるためである。こうすることで、子どもは、「標識の色には何か意味があるのだろうか」などと疑問を表出する。このような疑問を表出させた後に、「これから考えたいことは何か」と問う。子どもは、学習課題「標識等の色にはどのような意味があるのかを考える」を設定する。

次に、教材文「色さいとくらし」を提示する。音読と文章解釈を繰り返させながら、文章理解を図る。その際に、「この文章を読んで分かったことは何か」という視点を提示して読ませていく。子どもは、人工的な色彩や自然の中の色彩などについて、その働きや効果、活用例などの事例を、既存の認識を基に理解していく。その後、「説明の仕方の工夫」という視点を提示して読ませていく。子どもは、複数の事例を挙げて主張を導いている説明の仕方の工夫を理解する。

「色彩」という教材文の題材を意識して文章を読み、「標識等の色にはそれぞれに働きや効果があり意味がある」などと考えている子ども（C0）に、次のように働き掛ける。

働き掛け1

第三者からの依頼という形で言語活動（附属オリジナル標識をつくり、プレゼンする）を提示する。

問いをもたせ、学習課題をつくらせるための働き掛けである。

子どもに、養護教諭からの依頼を動画で提示する。依頼内容は、次の3つの要件を組み込む（①他教科等との学習に関連がある②不明確な部分を残す③自分の考えの説明を求める）。「標識づくり」という依頼を提示することで、子どもに社会科や図画工作科で育んだ資質・能力を発揮させる。「附属オリジナル標識」という不明確な部分を残すことで、「どこに、どんな標識をつくらうか」という疑問を感じさせる。「プレゼンしてほしい」という依頼で、自分の考えを伝える必然性を生む。

依頼に応えようとする子どもに、まず、「どこに」という疑問を解決させる。学校生活を想起させてケガの起きやすい場所を考えさせ、標識を掲示する場所を班ごとに決めさせる。次に、「どんな標識」という疑問に対して、「何を伝えるための標識か」「伝えるためにどのような図案にするか」と問い、班ごとに話し合わせる。子どもは、**資質・能力③（図工）「テーマに合わせて、表したいもののイメージに合う形や色を考える」**を発揮して、標識で伝える内容と標識の図案とを決める。

ここまでの過程の中で、子どもは、「附属オリジナル標識の色は、何色にすればよいだろうか」といった問いを表出する。このような問いを基に、「これから考えたいことは何か」と問う。子どもは、「附属オリジナル標識を何色にするか」という学習課題を設定する。

働き掛け 2

色の何が分かれば附属オリジナル標識の色を考えられるかと、そのための方法を問う。

読む目的と視点を明確にさせ、資質・能力④（国語）を発揮させるための働き掛けである。

学習課題を設定した子どもに、「色の何が分かれば附属オリジナル標識の色を考えられるか」「そのためには何をするか」と問う。「何が分かれば」と問うことで読む視点を明確にさせ、そのための方法を問うことで文章を読む目的を明確にさせる。

子どもは、二次での読書活動を想起し、「色の働きや効果が分かれば、自分たちの附属オリジナル標識の色を考えることができる」などと、色の働きや効果という視点を明確にする。そのための方法を問われることで、**資質・能力④（国語）「必要な情報を求めて自ら文章を読む」**を発揮し、教材文「色さいとくらし」を再読しようとする。また、教材文「色さいとくらし」だけでは情報が足りないと考え、「他の色のことについても知りたい」などと、他の文章も求める。他の文章を求める意見が出された場合に、色彩についての抜粋資料を与える。

働き掛け 3

必要だと判断した情報を付箋紙に書き出させる。

資質・能力①（国語）を発揮させ、文章から必要な情報を取り出させるための働き掛けである。

文章を読む目的と視点を明確にさせた子どもに、「文章を読んで、附属オリジナル標識の色を考えるために必要だと思ったことを付箋紙に書き出そう」と指示する。このように指示することで、明確にした目的と視点とで文章を読ませる。

子どもは、**資質・能力①（国語）「必要な部分について文章の要点や細かい点に注意して読む」**を発揮しながら、教材文「色さいとくらし」や色彩についての抜粋資料を読む。そして、例えば、「赤色は、真っ先に人の目に付く色」「赤色は、見る人を強く刺激する色」「赤色は、止まれを表す約束の色」などの情報を付箋紙に書き出していく。

働き掛け 4

話し合う目的（依頼した第三者へ向けて説明するため）を意識付けて班ごとに検討させ、結論を問う。

資質・能力②③（国語・社会）を発揮させ、必要な情報の関連性を見いださせるための働き掛けである。

まず、子どもに、「長谷川先生にプレゼンすることができるように、班ごとに附属オリジナル標識の色を何色にするか話し合おう」「話し合うときには、それぞれ書き出した付箋紙を『コア・マトリクス』のマトリクス部分に貼りながら話し合おう」と指示する。依頼した第三者へ向けて説明する目的を意識させて話し合わせることで、「どうしてその色にするのか」という理由を考えさせる。ここで考える理由は、必要だと判断した情報を関連付けて見いだされる。

子どもは、**資質・能力②（国語・社会）「ツールを用いて、必要だと判断した情報の関連性を考える」**を発揮して、付箋紙に書き出した情報を関連付けながら「附属オリジナル標識を何色にするか」「どうしてその色にするのか」を検討していく。

次に、子どもに、「あなたの班は、附属オリジナル標識を何色にするのか」と結論を問う。子どもは、**資質・能力③（国語・社会）「必要な情報を整理し、結論付ける」**を発揮して、例えば、「わたしたちの班の附属オリジナル標識は、赤色にしたい」などと結論付ける。

発揮した資質・能力の自覚を促す働き掛け

学習課題に対する自分の考えと、そのように考えた理由を問う。

自分の考えを表出させ、資質・能力を発揮したことを自覚させるための働き掛けである。

次の2点（①学習課題に対する自分の考え②そのように考えた理由）を提示して、記述させる。子どもは、「わたしは、赤色にしたい。赤は真っ先に人の目につく色だし、止まれという約束の色だから、全校のみんなに見てもらえるからだ」などと、必要だと判断した情報を根拠として**自分の考えをまとめる子ども**（Cn）となる。また、「こう考えたのは、文章から情報を集めて、赤色の働きや効果をつなげたからだ」などと、発揮した資質・能力を自覚する。

7 本時の構想 (本時 5 / 6時間)

(1) ねらい

「必要な情報を整理し結論付ける」(国語・社会③見方や考え方)といった資質・能力を発揮して、学習課題「附属オリジナル標識を何色にするか」に対する自分の考えをまとめることができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 社会「安全・安心なまちづくり」の学習において、交通事故防止の方策の一つとして色彩の効果を活用した実際の事例を学習している。
- 図画工作「わたしの色は何色」の学習において、自分のイメージに合う色が何かを考えながら表現する活動をしている。
- 教材文「色さいとくらし」を読み、「標識等の色にはそれぞれに働きや効果があり意味がある」などと考えている。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 第三者からの依頼という形で言語活動(附属オリジナル標識をつくり、プレゼンする)を提示する。
 - ・説明「みんなに依頼が届いています。見てください」
※依頼の動画を提示し、動画視聴後に依頼に応えるかという意味確認を行う。
※言語活動「附属オリジナル標識をつくり、プレゼンする」を提示する。
 - ・発問「依頼を聞いて、質問はありますか」
※質問内容を「標識を掲示する場所」と「標識の図案」「標識の色」に分けて板書する。
※「標識を掲示する場所」については、学校でケガの起きやすい場所とその原因を想起させ、班ごとに決めさせる。
※「標識の図案」については、「何を伝えるための標識か」「伝えるためにどのような図案にするか」と問い、班ごとに話し合わせて決めさせる。
※「標識を掲示する場所」と「伝える内容」「標識の図案」は、ワークシートにまとめさせる。
 - ・発問「これから考えていきたいことは何ですか」
※子どもの発言を基に、「附属オリジナル標識を何色にするか」を、学習課題として黒板に板書する。
※設定された学習課題でよいかを、挙手で確認する。

このようになり (C1)

- 問いをもち、学習課題をつくる。
 - ・ケガを減らすために附属オリジナル標識をつくってほしいと言っていたよ。
 - ・標識をつくるだけでなく、どんな標識をつくったのか長谷川先生にプレゼンするんだな。
 - ・附属オリジナル標識は、どこに貼るのですか。
 - ・附属オリジナル標識とは、どんな標識にすればいいのだろう。
 - ・つながって、標識の色は、どんな色でもいいんですか。
 - ・廊下で人とぶつかってケガをする人がいると思うから、つくった標識を廊下に貼ろう。
 - ・体育館でボールがぶつかってケガをしたことがあるから、体育館に貼ろう。
 - ・「廊下を歩こう」ということを伝えたいから、歩いている人を標識の真ん中に描こう。
 - ・「ボールに注意して」ということを伝えたいから、ボールと目を描こう。 資・能③ (図工)
 - ・附属オリジナル標識の色は、何色にすればいいかということです。
 - ・どんな色にすれば、全校のみんなに見てもらえるかということです。
※学習課題に対して、同意の反応を示したり、挙手をしたりした子どもを、問いをもった姿とみなす。

このように働きかけると【働き掛け2】

- ※前時で設定された学習課題「附属オリジナル標識を何色にするか」を全体で確認する。確認後、学習課題を黒板に掲示する。
- 色の何が分かれば附属オリジナル標識の色を考えられるかと、そのための方法を問う。
- ・発問「色の何が分かれば、附属オリジナル標識の色を考えられますか」
- ※子どもの発言を受けて、出された意見を板書する。
- ・発問「附属オリジナル標識の色を考えるために、何をしますか」
- ※「教科書を読みたい」「『色さいとくらし』を読みたい」といった主旨の発言があった場合、教材文「色さいとくらし」を読んでよいことを伝える。
- ※「他の色のことについても調べたい」という主旨の発言があった場合、色彩についての抜粋資料を配付する。

このようになり (G2)

- 読む目的と視点を明確にし、資質・能力④（国語）「必要な情報を求めて自ら文章を読む」を発揮する。
 - ・色の働きが分かれば、自分たちの附属オリジナル標識の色を考えることができます。
 - ・つながって、その色の効果が分かれば、附属オリジナル標識の色を考えることができます。
 - ・前の時間に読んでいた「色さいとくらし」をもう一度読んでみます。
 - ・「色さいとくらし」に書かれていた色とは別の色のことも知りたいので、他も調べたいです。
- 資・能④（国語）

このように働きかけると【働き掛け3】

- 必要だと判断した情報を付箋紙に書き出させる。
- ・説明「色彩の働きや効果が分かれば、附属オリジナル標識の色を考えられそうなんです」
- ・指示「では、文章を読んで、附属オリジナル標識の色を考えるために必要だと思ったことを付箋紙に書き出しましょう」
- ※必要だと判断した情報を書き出すための付箋紙を配付する。
- ※付箋紙1枚につき、必要だと判断した情報を一つ書くようにさせる。

このようになり (G3)

- 資質・能力①（国語）「必要な部分について文章の要点や細かい点に注意して読む」を発揮しながら、教材文や色彩についての抜粋資料を読み、必要な情報を付箋紙に書き出す。
 - 【例：赤色を採用しようとする場合の記述（教材文から）】
 - ・赤色は、真っ先に人の目に付く色。
 - ・見る人を強く刺激する色。
 - ・「止まれ」を表す約束の色。
 - 【例：赤色を採用しようとする場合の記述（抜粋資料から）】
 - ・赤色は、人の目に入ってくる効果（誘目性）がある。
 - ・危険や注意を呼びかける。
 - ・災厄から身を護る色。
- 資・能①（国語）

このように働きかけると【働き掛け4】

- 話し合う目的（依頼した第三者へ向けて説明するため）を意識付けて班ごとに検討させ、結論を問う。
- ・指示「長谷川先生にプレゼンすることができるように、班ごとに附属オリジナル標識の色を何色にするか話し合しましょう」
- ※話し合う際に、必要な情報を書き出した付箋紙を「コア・マトリクス」のマトリクス部分に貼りながら話し合うようにさせる。班ごとに、「コア・マトリクス」を配付する。
- ・発問「あなたの班は、附属オリジナル標識を何色にしますか」
- ・指示「何色にするか、結論を『コア・マトリクス』のコアのところに書きましょう」

このようになり (C4)

- 資質・能力② (国語・社会) 「ツールを用いて、必要だと判断した情報の関連性を考える」を發揮して、付箋紙に書き出した情報を関連付けながら「附属オリジナル標識を何色にするか」「どうしてその色にするのか」を検討していく。

【例：赤色を採用しようとする場合の話し合い (教材文の情報から)】

- ・ 真っ先に人の目に付くということと、「止まれ」を表す約束の色でもあることが、赤色の効果なので、わたしたちの伝えたい「廊下を歩こう」を表すことができるのは、赤色だと思う。

【例：赤色を採用しようとする場合の話し合い (教材文と抜粋資料から)】

- ・ 赤色は、真っ先に人の目に付くことだし、災厄から身を護る色ということだったので、僕たちの「ボールに気を付けて」という伝えたい内容を全校に伝えることのできる色だと思う。
資・能② (国・社)

【例：赤色を採用した場合】

- ・ すぐに人目に付いて、「止まれ」を表す赤色にしよう。
- ・ 人の目に入ってくる効果があり、「止まれ」を表す約束の色なので、赤色にしよう。
- ・ 真っ先に人の目に付いて、災厄から身を護る赤色にしよう。
資・能③ (国・社)

このように働きかけると【自覚を促すための働きかけ】

- 学習課題に対する自分の考えと、そのように考えた理由を問う。
 - ・ 指示「学習課題に対する自分の考えと、そのように考えた理由をワークシートに書きましょう」
- ※ワークシートを配付し、①学習課題に対する自分の考え②そのように考えた理由を視点として提示する

このようになる (Cn)

- 必要だと判断した情報を根拠として自分の考えをまとめる。
 - ・ わたしは、赤色にしたい。赤は真っ先に人の目につく色だし、止まれという約束の色だから、全校のみんなに見てもらえるからだ。
 - ・ こう考えたのは、文章から情報を集めて、赤色の働きや効果をつなげたからだ。

8 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働きかけにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働きかけにより、想定した資質・能力を發揮することができたか。
- ③ 子どもは發揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 自覚を促すための働きかけを受けて、.....のような叙述を根拠にして、.....のような自分の考えをまとめることができたかを、ワークシートの記述から検証する。
- ②-1 働きかけ1を受けて、図工...③のように、テーマに合わせて表したいもののイメージに合う形や色を考えていたかを、ワークシートの記述から検証する。
- ②-2 働きかけ2を受けて、国語...④のように、必要な情報を求めて自ら文章を読もうとしていたかを、発言や進んで文章を読んでいる姿から検証する。
- ②-3 働きかけ3を受けて、国語...①のように、教材文「くらしと色さい」や関連読書材を読み、必要な情報を取り出せていたかを、付箋紙の記述から検証する。
- ②-4 働きかけ4を受けて、国・社②のように、付箋紙に書き出した情報をツールを用いて関連付けながら考えていたかを、班での話し合いにおける発言の様子から検証する。
- ②-5 働きかけ4を受けて、国・社③のように、必要な情報を関連付けて結論を考えていたかを、班での話し合いにおける発言の様子から検証する。
- ③のように、發揮した資質・能力を自覚しているかを、ワークシートの記述から検証する。